

西多賀 - nishitaga -

茶の里?

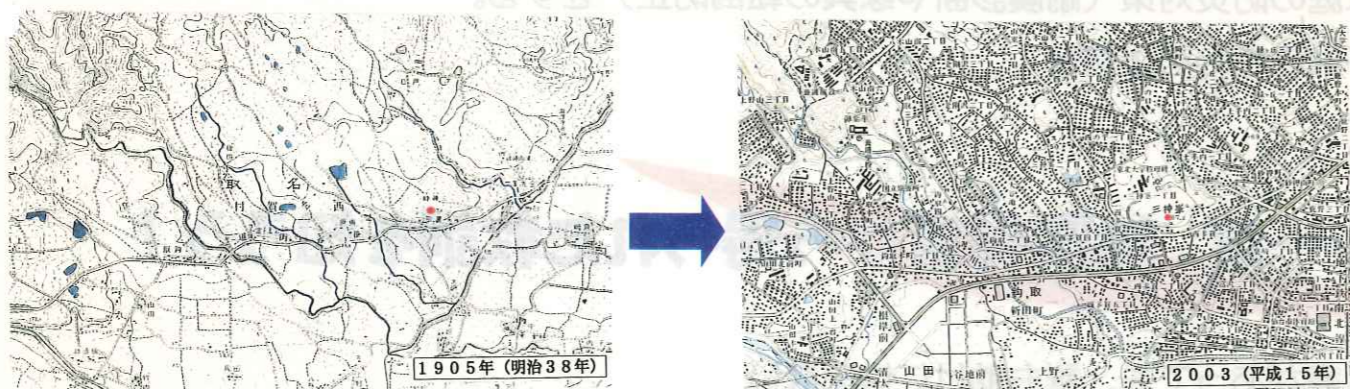
2007/03/10

この周辺は、昔は、鉤取村、富澤村（のちに西多賀村）といわれ、閉上（名取市）の東多賀に対して西多賀といわれていました。そして、仙台地方最古の先住民族居住跡でもあり、文化の先進地であったところです。

昔の地図（明治時代の終わり）と最近の地形図を並べて見ました。

いまは、大都市仙台のベッドタウンとして発展していますが、つい100年位前は、大年寺山に続く里山を借景とする水田や桑畑が広がる風景が思い起こされます。記録によりますと明治10年の鉤取村は89戸で522名の集落、馬41頭が飼われていたそうです。

1戸当たり6人家族で、2軒に1頭の馬がいたこととなります。村の産業は、水田や畑のほかには竹、コウゾ（和紙の原料）、薪（タキギ）だったそうです。



なんかあいそうな地名

新町名になる前の地名は、自然地名であったり文化地名であることがよくあります。自然地名とは、自然をあらわしておおかたは、地形、地質、地物の特徴から来ていますし、文化地名は、歴史的なものが多く人間社会とのかかわりから生まれた生活地名でもあります。ちょっと、昔の地名を見て見ましょう。

昔の地名	現町名	由来
金山	三神峯1丁目	鉱山跡（公園の南斜面付近）
金洗沢	西多賀1丁目	砂金の選鉱?
金剛沢	金剛沢3丁目	鉱山（明治時代採掘）、金剛童子像（雨乞い）
菌城	鉤取3丁目	藩政時代にきのこ栽培地（コナラ林、湿地）
天沼	西多賀3丁目	沢の合流点で湿地、澁み
東台	西多賀2丁目	段丘、高台
西台	西多賀3丁目	段丘、高台
腰廻	西多賀5丁目	笹川の曲流部（形状）
大谷地	大谷地	湿地
大仏	ひより台	急な崖地（岩盤、洞内仏）
紙漉山	鉤取3丁目	和紙職人居住（コウゾ採取、傾斜地、ガウ場）
御堂平	仙台西高校付近	背後が崖地（岩盤）、萱（カヤ）採取地

茶畑のはなし

藩政時代の古い資料によりますと、ここ西多賀市民センター付近は茶畑であったことがわかります。

驚かれる方があるかもしれませんが、その頃、元茶畑（仙台一高付近）、保春院丁（若林区役所付近）、根岸、鉤取にかけて広がっていたそうです。もともとは、政宗公が京都から持ち帰ったらしいのですが、種子なのか苗木なのかは不明です。おそらく、当時は仙台の中心部よりは2℃程度高い温暖さと名取川の川面からの湿気が適しているとの判断があったかもしれません。それに、丈夫で根が張ることもあり、この地の土質に合っていたのかもしれません。しかし、その後交通が良くなって物流が盛んになると静岡方面からの流入で、茶の栽培は廃れていきます。



お茶は、中国伝来ではありますが、昔は薬草園にも植えられていて、利尿や覚醒に使われていたようです。栽培地では、濃い緑の丸く仕上がった樹形を見ますが、この花を見られたことがありますか。2~3cmの黄色のシャクを包み込むような白色の五弁花で、やや下向きに咲き、ほんのり芳香もあります。仙台あたりでは11月~12月には見られます。

茶の木は、陽当たりを極度に好んで、乾燥にもよく耐える木です。そのために嫁入りのときに持たせ、婚家に入ったときの初仕事で家族にお茶を入れることという風習もあったそうです。

藩政時代には、この付近一帯が、川面から吹いてくるそよ風に緑の葉を揺らし、年末近くになると白い花を甘く咲かせている情景が見られたことでしょう。

茶の花やこの夕暮れを咲きのばし 千代女
茶の花や白にも黄色にもおぼつかない 蕪村

カシワの木

仙台最古といわれる多賀神社の境内には有名な銀杏の他にカシワの木があるのをご存知ですか。カシワはブナ科の樹木で、濃い緑でごわごわした葉を思い出されるのではないのでしょうか、又冬には枯葉が落ちないのを見ている方がいるかもしれません。

葉は五月のカシワ餅にも使いますが、この木はコルク質の厚い樹皮をもち、水分を多く含むために、極めて耐火性が強くて樹の半分以上が焼けても生き永らえることができます。普通は火山灰地や砂丘、やせた丘陵地などで見られます。



実は、多賀神社のカシワも、大正3年の大火での生き残りだったそうです。すごい生命力に驚きます。（今は石段の左手に若木があります。）そして、西多賀小学校、中学校の校章にも、このカシワが採用されています。子供たちが、強く逞しくなって、未来へ羽ばたいてほしいという願いからと聞いています。中学校のものは、萩の形の間にカシワが三方にのぞき、校歌にも「萩と柏の徽章 ほこらかに」と詠われています。

防災Q&A (正解は下にあります。)

Q1：昭和53年の「宮城沖地震」では、住宅の被害が集中して起きたところがあります。その特徴はなんですか？

- ア 造成地と軟弱地盤の地域
- イ 段丘の礫層が分布する地域
- ウ 河川流域近傍の地域

Q2：昭和53年の宮城沖地震で死者を出した一番の原因は何ですか？

- ア 家屋の倒壊
- イ ブロック塀の倒壊
- ハ 家具の倒壊

Q3：「宮城沖地震」は、平均どのくらいの発生間隔で繰り返すといわれていますか？

- ア 約27年
- イ 約37年
- ハ 約47年

Q4：「阪神・淡路大震災」のとき、被害が大きかった建物は何年以前の建築物に多かったでしょうか？

- ア 昭和50年以前
- イ 昭和56年以前
- ハ 昭和62年以前

Q5：「阪神・淡路大震災」以降、防災対策で強調されていることは何ですか？

- ア 「グラッときたら外に出る」
- イ 「グラッときたら火の始末」
- ハ 「自助」「共助」の必要性

Q6：私立の小中学校、高校には何が備蓄されているでしょうか？

- ア 飲料水、クラッカー等の食料品
- イ 毛布、炊飯セット、暖房器具等の生活用品
- ハ ハンマー、リヤカー、保安帽、ツルハシ等の資機材

Q7：応急手当で、出血の手当てをしながら、同時に行うことは何ですか？

- ア 飲み物を与えて、元気付ける
- イ 観察（顔色、皮膚の色）をおこなう
- ハ 着替えさせる

Q8：骨折の疑いがあるとき、副木として使えるものは何ですか？

- ア カサ
- イ フライパン
- ハ ヘルメット

Q9：ヤケドしたときに、とっさの手当てはどうしますか？

- ア 扇風機で風を当てて冷やす
- イ すぐに軟膏を塗る
- ハ きれいな水で冷やす

Q10：ケガ人を運搬するときに注意しなければならないことは何ですか？

- ア 食事をしたかどうか
- イ 手当てが済んだかどうか
- ハ 自転車の置き場所を確かめる

Q11：救急箱に備えたほうが良いものはどれでしょうか？

- ア 非常食の缶詰
- イ カラオケのマイク
- ハ 滅菌ガーゼ

正解

Q1ア、Q2イ、Q3イ、Q4イ、Q5ハ、Q6ア、Q7イ、Q8ア、Q9ハ、Q10イ、Q11ハ

ひとりで出来ること

- ① 自己管理につとめます（健康維持・生活の節制）。
- ② 日常生活場面での危険予測とその対応訓練（イメージと実践）の行う。
- ③ 災害や防災に関する情報収集し、制度・知識・技術の習得に努める。

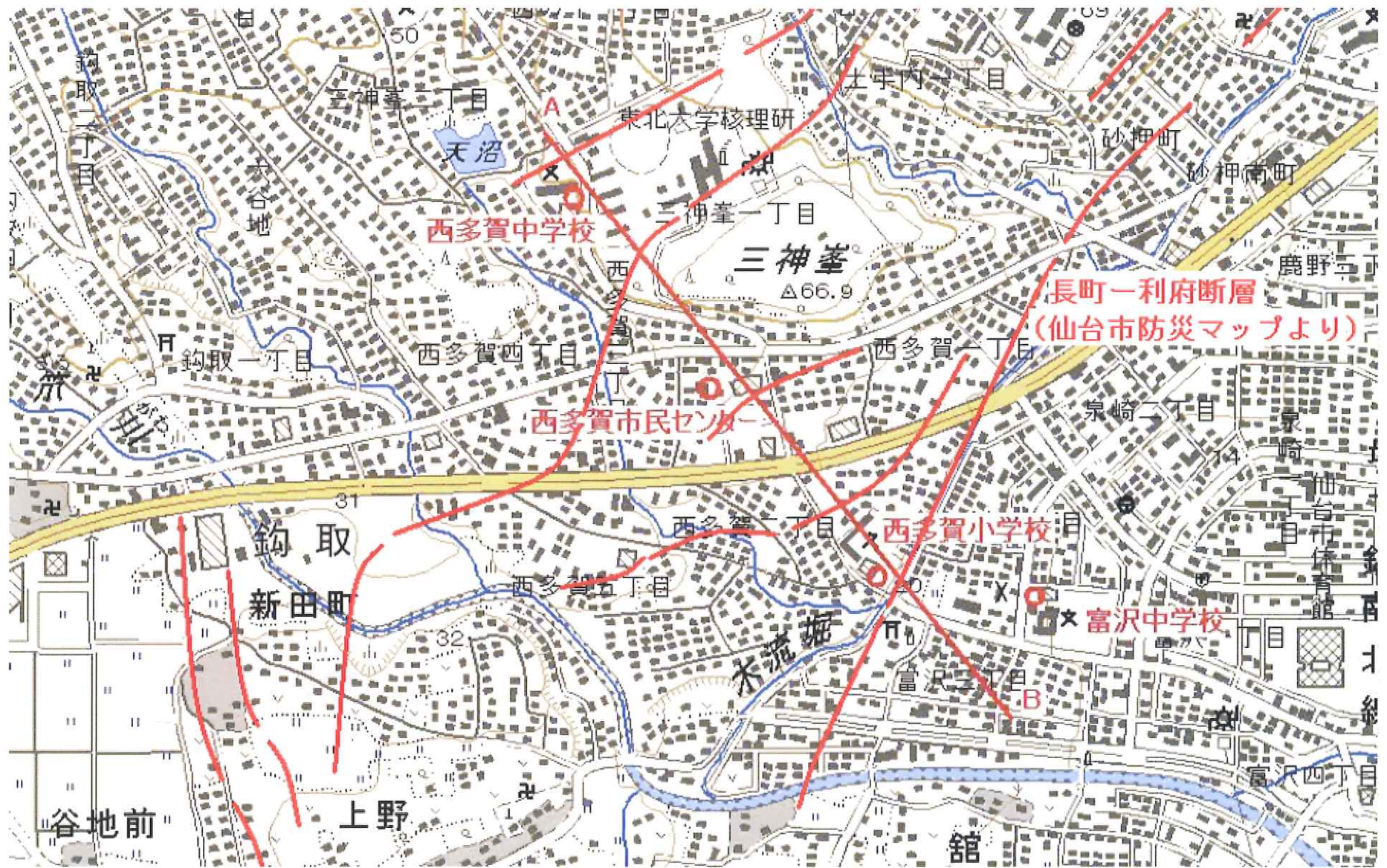
家族で協力して出来ること

- ① 避難するときの役割を分担しておく、行動パターンを決めておく。
- ② 家庭の防災対策（耐震診断や家具の転倒防止）をする。
- ③ 子供たちの防災教育

もう一度、地震災害から得られた教訓を知ろう！

- ① 災害があっても、誰も助けには来ない
- ② 地域のお付き合いが「助けのきずな」
- ③ 複数の火災が発生したときには救急車・消防車は来ない
- ④ 「共存共栄」「自助・共助・公助」の連携が必要
- ⑤ 備えあれば憂いなし
- ⑥ 支援ボランティアを生かすのは、市町村のボランティア
- ⑦ 「にせボランティア」に注意！
詐欺、防犯に気が抜けない
- ⑧ 命がなければ助けられない！
- ⑨ 地元の行政担当者も被害者、過度の期待は無理！





長町一利府断層
(仙台市防災マップより)

—— : 断面線 ○ : ボーリング位置

